

C O * L O R

コーラル
だい
第34号

子ども(個人)をやさしく包み込み 自分らしいCOLOR(色)を大切に・・・



私たち大人でもオノマトペを加えて表現した方がイメージしやすいことが多いですね。この便利なツールを、言葉の理解が苦手な子どもたちに使わない手はないですね。子どもとの会話の中に、即イメージに繋がるオノマトペを多用することによって、頭の中に言葉のレパートリーが定着していきます。

それらが内言(声や文字となって外に現れない心の中の言語=思考)として蓄積され外言(他者に向けて用いられる音声言語=伝達)に繋がり、発語が増えていくということが、使い続けることで実感できると思います。

★★★
オノマトペポイント
01
言葉が表す意味が
わかりやすい

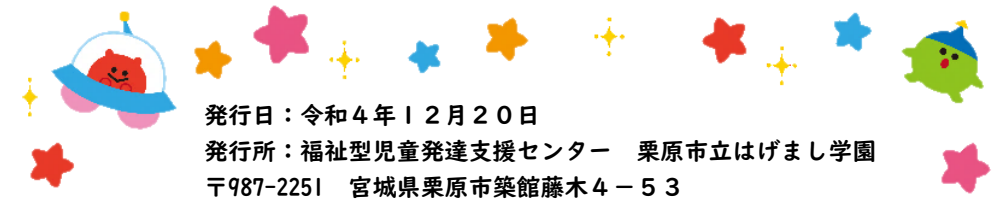
★★★
オノマトペポイント
02
真似しやすい

★★★
オノマトペポイント
03
リズムや抑揚が
楽しい

発達障害児、特に言葉でのコミュニケーションを苦手とする自閉スペクトラム症の子どもたちへの声かけのコツは「短く簡潔にすること」です。しかし、いくら短く簡潔な言葉を選んでも、その単語自体を子どもが理解していなければ何も伝わりません。「石鹸で手を洗ってね」といっても、「石鹸・手・洗う」という言葉の意味を理解していなければ子どもはどうしていいのかわからないままです。



そこでオノマトペの出番です。「あわあわブクブクでゴシゴシしてね」と言えば、頭の中に動作のイメージが湧きやすくなりますね。それが、オノマトペの良いところだと思います!!



発行日：令和4年12月20日

発行所：福祉型児童発達支援センター 栗原市立はげまし学園

〒987-2251 宮城県栗原市築館藤木4-53

Tel / Fax 0228-22-1623

「オノマトペ」～フランス語で、擬音語・擬声語・擬態語の総称～

ちょっと聞きなれない用語かもしれませんが、実は日常的に使っている言葉です。「ビリビリ・ぱらぱら・ガツチャン」など物音や声を真似た擬音語及び擬声語や、「キラキラ・ここにこ・ガツクリ」など状態を真似た擬態語を指す言葉のことをいいます。

擬音語ばかりの会話を繰り返していると、正しい言葉を覚えにくくなるのでは?と不安になるかもしれませんが、結論からお伝えすると、オノマトペを多用したからといって、擬音語しか話せなくなってしまうことはありません。

スモールステップでゆっくりゆっくり進もう

例えば、いきなり、「これは犬よ。犬!」と伝えるよりも、犬を見て「わんわん」と理解できるようになってから「わんわんは犬っていうんだよ」と段階を踏んで教えてあげた方が覚えやすいという子どもも少なくありません。一見遠回りに感じるかもしれない方法が、実は言葉の取得への近道だったという可能性もあるのです。

意味のわかる単語が増えれば、お互いの気持ちのやりとりができるようになりコミュニケーションの幅が広がってきます。

次のステップに繋げるためにも、内言(思考)を増やし、人とかかわるのは楽しいということをいっぱい心に刻んであげてほしいと思います。理解できる言葉が増えることで、「ポイポイしようね」でお片づけができた!など、自らの行動に繋がりがやすくなっていくことも期待できます。意思疎通ができるということは、言語だけではなく、行動や生活の流れもスムーズになっていくことに繋がっているのです。

気持ちがわかり合えることは、親(かかわる大人)にとっての大きな喜びとなり、その喜びは子どもにとっても大切な経験となります。

そして、なにより大事なことは、焦らないことです。気持ちがわかり合える日やお互いに伝え合える日を楽しみに、日々の繰り返しを大切にして、ゆっくりと一歩ずつ進んでいきましょう。

